



カンボジアのベイン・サコン農水相(2019年当時)と会談を行う村山哲生代表取締役。カンボジア農水省は、日本の技術を活用したカシューナッツ加工工場の建設をトッププランニングJAPANに依頼するとともに、農水省としても支援していくと表明した。

「カシューナッツ王国」実現へ！ 加工工場設立・運営でカンボジアをサポート

カンボジア
「カシューナッツのバリューチェーン構築と高付加価値化に向けた案件化調査」
2019年8月～2021年8月
東京都 株式会社トッププランニングJAPAN



工場を建設する前に、加工工場を建設する意義を地元住民に伝える説明会が行われた。(2023年)

カンボジアは、世界でもトップクラスのカシューナッツ生産国です。しかし、加工施設が不足していることから、隣国ベトナムを中心に「殻付きのまま」安価で“密輸出”されており、適切な価格で取引されていません。この課題を解決するため、株式会社トッププランニングJAPANはJICA民間連携事業を活用し、カシューナッツの加工・販売事業のための調査を実施する一方で、本調査期間中、現地にカシューナッツ加工工場を設立し、日本への初輸出も実現させました。カンボジア政府の産業開発方針にも後押しされるカシューナッツ事業について、同社の村山哲生取締役と今橋隆之経営企画室室長にお話をうかがいました。

あなたが食べているカシューナッツは もしかしたらカンボジア産かも？

カンボジアは、世界有数のカシューナッツ原材料の生産国です。しかし、その事実を知る人は少ないのではないのでしょうか。それもそのはずで、実はカンボジアから出荷されるカシューナッツの多くは、隣国のベトナムに“密輸出”されており、その結果「ベトナム産」として日本を始めとする世界に出荷されているからです。

なぜ、密輸出が横行してしまうのか。理由は、カンボジアには伝統的な手作業の加工工場が若干存在するだけで、機械化・衛生管理がしっかりと行われている近代化加工工場がほほないからです。そのため、工業化が進んだベトナムに頼らざるを得ないという事情があります。

今回の調査では、当初、カンボジアでビジネスを行う前にカシューナッツの現状調査をするつもりでした。しかし、当社は現地で別事業である飲料水事業を展開しており、食品加工と衛生管理のノウハウは既に持っていたので、本調査は、カンボジアへの貢献の可能性を実証事業に近い形で実施することとしつつ、本調査期間中、加工工場を設立することとしました。

付加価値をつけた正規輸出が農村を救う

今回の調査において、当社が特に注力したのが「農産物の高付加価値化」「農家の収入改善」「農村開発」の3点です。現状、カンボジア産カシューナッツは、密輸業者に“購入してもらっている”ため、買ったときに近い値段で取引されています。これでは、農家の収入は向上しませんし、儲からなければ農村開発もできません。このため、カシューナッツを現地で加工し、付加価値を付けて正規に輸出する加工工場の設立は急務でした。JICA民間連携事業に採択されたことは、カンボジア農業省や地元の農業局、カシュー協会等からの協力を得る上で、非常に意義深かったと感じています。とりわけ、カンボジア農業省とは、本調査開始と同時に、合意文書(覚書)の段階まで手続を進められ、スピーディーに調査を進めることができました。

新型コロナウイルス感染症のパンデミックの影響で

調査中断を余儀なくされるなど、様々な困難もありました。しかし、日本へ初輸出までこぎつけることができたのは、JICAの支援があったからこそだと考えています。

「カンボジアはカシューナッツ王国を目指す」

現在、カンボジアには、近代的なカシューナッツの加工工場が増えつつあります。これは、当社が現地で加工工場を設立・運営し、日本へのカシューナッツの初輸出を実現したことが好影響をもたらした結果だと考えています。また、フン・セン首相(2021年当時)が当社の工場を視察し、加工されたカシューナッツを前に「カンボジアはカシューナッツ王国を目指す」と発言したことも、カシューナッツへの注目がカンボジア全土に広がった一因と言えるでしょう。

カンボジア政府は、「産業開発方針(2015～2025年度版)」において、カシューナッツを国家産業の成長を後押しする重要18品目(注)のうち2番目に重要な品目と位置付けています。そして、2030年までに生産量100万トン、国内加工比率を12%まで向上させることを目指す方針を打ち出したので、当社の加工工場も現地従業員を40人雇用し、生産体制を強化しました。

さらに、当社は、世界トップ5に入るオランダのナッツ企業・NUT2とも契約交渉中です。これは、カンボジア産カシューナッツがブランドとして、世界的大手企業に認められたという証拠であり、今後ますます需要と付加価値が高まっていくと確信しています。

当社は、カシューナッツ事業を通じて、カンボジア全体の経済発展に貢献できるよう、今後も事業を推進してまいります。

トッププランニングJAPAN
代表取締役
村山 哲生氏



Episode

カシューナッツは、木から自然落下をしたものを収穫することが一般的です。カシューの木からは、必要最低限の手入れでも、成木一株につき約10～30kgもの実が毎年収穫できます。このため、開拓の難しい山の斜面や、地雷を撤去したものの放置された荒地を有効活用する手段として、現地で植栽が進んでいます。



(注)国家産業の成長を後押しする重要18品目
カンボジアが産業発展のために政策を講じる18の戦略物資のうち、最も重要なものがタピオカの原料となるキャッサバで、2番目としてカシューナッツが選ばれました。

会社名: 株式会社トッププランニング JAPAN
本社: 東京都中央区
設立: 1990(平成2)年10月
代表者: 代表取締役 村山 哲生
社員数: 50名
(2025年1月現在)

事業内容: 建物の施工・解体、再生可能エネルギー、石油関連廃棄物処理、ミネラルウォーター製造販売等
<https://www.tpjp.co.jp/>

ODA 事業の情報

本記事の事業は、日本政府(外務省)と国際協力機構(JICA)が連携して進める「中小企業・SDGs ビジネス支援事業」として採択されたものです。詳しくは JICA「民間連携事業」ページでご確認ください。
https://www.jica.go.jp/priv_partner/index.html



機械化が進んだ加工工場だが、カシューナッツの薄い皮をむく作業は人力で行われている。この作業は、現地の女性スタッフが担当している。



加工されたカシューナッツ。カンボジア産は、実が大きく味が濃厚なのが特徴。加工工場生産されたカシューナッツは日本のスーパーのサミット等で購入することができる。